

頭蓋底悪性腫瘍に対する複数科合同による手術成績

(文責：耳鼻咽喉科・頭頸部外科 安里 亮)

【はじめに】

頭蓋底に進展した悪性腫瘍はこれまで手術が困難とされ、放射線・化学療法が中心であり、一部を除き、根治的治療が望めなかった。近年、我々は脳外科・形成外科などと共同でこれら頭蓋底に進展した悪性腫瘍の治癒を目指した根治切除をおこなっておりその治療成績について報告する。

【対象】

1997年から2004年7月までに当科において入院の上手術を施行した頭蓋底悪性腫瘍は17例であり、近年増加傾向にある。その内訳は前・中頭蓋底10例・側頭骨4例・頚椎～斜台2例であった。現疾患は前頭蓋底では前頭洞癌1例、上顎癌1例、上顎癌再発1例、篩骨洞癌3例、嗅神経芽細胞腫3例、鼻腔癌再発1例、口蓋癌再発1例であり側頭骨は外耳癌4例、頚椎～斜台は脊索腫2例であった。以上の症例に対し手術内容・予後・合併症を検討した。

【結果】

全例において手術はen-bloc切除を目標にしているが実際に行えたのは15例であり、1例で腫瘍に切り込む形となった。術前術後の併用治療は放射線未治療例14例中8例に併用し化学療法は17例中8例に施行した。

術後経過観察は2-72ヶ月・平均18.5で死亡3例、担癌生存2例、腫瘍再発なく生存が8例である。死亡例は3例あり、肺転移で3年目に、リンパ節再発で7ヶ月目、術後ARDSにより2ヶ月目に死亡した症例であった。担癌例は2例とも頭蓋内に再発し、1例はen-bloc切除ができなかった症例で、1例は3回目の手術として頭蓋底郭清をおこなった症例である。今後、原発の進展や転移の検索の精度をより高める必要があると思われた。術後合併症は前述のARDS1例(外耳癌)と環椎由来脊索腫瘍で皮下膿瘍を来し、保存的処置を4週間行い治癒した。前頭蓋底症例は合併症なく経過したが、側頭骨症例では1例で前述のARDSにより2ヶ月で死亡し、全例で皮下に髄液漏を見とめ、2例では圧迫などの保存的処置にて軽快したが、2例で創部に感染を見とめ、1例で髄膜炎をきたした。側頭骨手術は前・中頭蓋底手術に比べ術式・術後管理とも高度な技術をようするとおもわれた。

【結語】

根治が困難な頭蓋底進展悪性腫瘍に対し、複数科合同による手術を行った。頭蓋底手術例では腫瘍の進展や転移の検索の精度をより高めることが必要である。側頭骨の手術はきわめて困難で合併症回避のための手技の確立や術後管理の重要性を考えさせられた。

